

J. Sights Corporation

リアルな現地(ナミビア編)

J サイト株式会社

齋藤 俊

この度はナミビアへ出張に行って参りました。弊社はナミビアから伊勢海老(ロブスター *1)を輸入しており、サプライヤーと会議・打合せを行い工場視察も行いました。また、現地では漁業省・外務省の方々と面談し、日本ーナミビア間の貿易を拡大することにより弊社としてどのようにナミビア経済へ貢献できるかも会議を行いました。ナミビア産伊勢海老(ロブスター)の品質は非常に高く、御節のメインとして多く使用されております。



本レポートでは伊勢海老のことだけでなく、私が出張中に経験したナミビアでのことを記載させていただきます。



1,100km 走破の車窓から

今回の出張では、ナミビアに入国するためにケープタウンまでフライトで行き、ケープタウンからは陸路でナミビアへ向かいました。ケープタウンから目的地のナミビア・ルーデリッツまでは陸路で1,100km強。サプライヤーの一人が一日で走破してしまったことにも非常に驚かされました。ナミビアでもこれだけの距離を運転する人は多くないようですが、日本よりも国土が

J. Sights Corporation

2倍以上あるナミビアは一日数百キロを運転することは当たり前のようです。走っている道路はほとんどの場所でフェンスが設けられており、フェンスの向こう側には多くの野生動物を見ることができました。



車に乗り始めた時には無事生きて帰れるか心配でしたが、怖いことに数百 km 走ると慣れてしまい後半はむしろ快適に過ごすことができました。



また、道路についても日本ほど整っているわけではなく、一部の道路は砂利道を整えた程度でありそこを 100 キロ以上のスピードで走っていくのは一種のアトラクション(ジェットコースター)のようなものでした。



ケープタウンルーデリッツ間でサプライヤーの友達の家に立ち寄りました。彼の家が非常に大きいことにも驚かされましたが、何よりも自分で狩った(Game)動物たちの骨を飾っており、狩った後の写真とともに見ると臨場感ある雰囲気には圧倒されました。

J. Sights Corporation



ナミビアではサファリの中で狩り(Game)を行うことは一つの娯楽とされており、海外から移住された方々にとってはそういった経験を楽しむために移住してきているとのことでした。私には狩り(Game)をする勇気も時間もなく経験できませんでしたが、いつかは。。。と考えております。



今回はナミビアというフライトで合計 35 時間程度かかる場所であり治安としても安全とは決して言えない場所ですが、ご興味のある方は現地に入れば日本で経験できないような体験ができる素晴らしい場所だと思います。

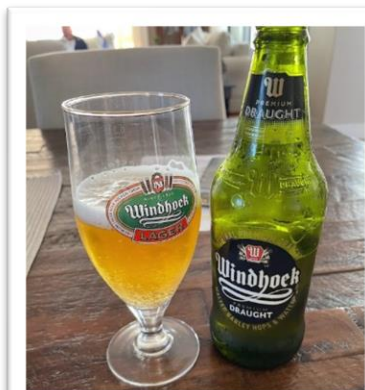
次回は 10 月にカナダ・アメリカへ出張予定となります。次回出張でも現地のリアルな雰囲気を記載できればと思います。

💡*1 消費者庁の見解によると海外産のイセエビ類イセエビ科の商品も産地が明確な場合「伊勢海老」と表記でき、弊社取り扱いのイセエビは紛うことなく「ナミビア産の伊勢海老」です。
今回ご紹介のナミビア産伊勢海老をはじめ、弊社商品にご興味のある方はお気軽に[お問い合わせ](#)ください。



J. Sights Corporation

Photo Gallery



その国を知るにはまず、その土地の食事(お酒?)から。
ナミビアを代表するウイントフック・ラガー。
かつてドイツ領であったナミビアでは、ドイツ仕込みの技術で
美味しいビール製造が盛んに行われています。



Game Lodgeと言われる野生のサファリパークのような場所。
野生の中に人間が住むスペースを確保するためのフェンスがあります。
感染症対策にも蚊よけは必須。部屋には殺虫剤が2本用意されており
中に入ったらまず殺虫剤を！と案内されました(...怖)



色鮮やかなボイル加工
直後。余熱による過加
熱を防ぐため冷え冷
えの氷を乗せます。
(整っている最中?!)

帰港直後の漁師さん
たちは、ナミビア産伊
勢海老をどんどん降
ろしていました。



南アフリカの観光名所、Cape Town のテーブルマウンテン。
観光客が想像以上に多く、あいにく登るのは次回のお楽しみに。